

第2回生徒による授業評価の分析

1. 学年毎の傾向（評価3，4の割合） ※網掛けは80%未満のもの。

○1年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	85%	84%	77%	81%	79.7%	73%	85%	90%
地理歴史	92%	78%	87%	82%	95%	82%	85%	91%
数学	96%	84%	90%	94%	94%	90%	91%	95%
理科	91%	72%	77%	87%	84%	85%	90%	90%
芸術	97%	95%	95%	81%	96%	96%	91%	97%
体育	92%	97%	91%	84%	92%	86%	93%	97%
保健	92%	90%	88%	74%	98%	85%	84%	94%
外国語	89%	82%	81%	91%	87%	77%	89%	92%
情報	97%	85%	85%	82%	93%	88%	89%	96%
総合	84%	90%	85%	96%	83%	78%	86%	93%

○2年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	92%	92%	91%	89%	93%	92%	93%	95%
地理歴史	94%	86%	92%	87%	96%	90%	91%	94%
公民	97%	78%	93%	98%	94%	86%	85%	94%
数学	86%	77%	83%	81%	90%	85%	90%	91%
理科	98%	88%	96%	90%	98%	94%	94%	95%
体育	100%	99%	100%	92%	97%	96%	97%	99%
保健	96%	92%	94%	92%	97%	92%	92%	95%
外国語	96%	89%	93%	94%	95%	94%	93%	94%
家庭	97%	92%	96%	90%	95%	95%	92%	95%
総合	93%	93%	92%	98%	92%	91%	93%	95%

○3年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	94%	90%	92%	88%	93%	89%	92%	92%
地理歴史	96%	91%	97%	92%	95%	93%	93%	93%
公民	92%	80%	96%	80%	96%	92%	92%	84%
数学	96%	90%	93%	90%	98%	93%	94%	92%
理科	96%	90%	94%	84%	96%	93%	96%	95%
体育	97%	99%	97%	97%	96%	95%	99%	98%
外国語	95%	88%	93%	92%	95%	92%	93%	92%
総合	98%	98%	96%	95%	98%	96%	94%	97%

※ A：授業の準備・教材の工夫

B：授業の充実感

C：授業の進め方

D：生徒主体の授業の工夫

E：説明のわかりやすさ

F：生徒への接し方

G：学習への取組

H：態度・姿勢

A～C：授業内容

D～F：指導方法

G～H：本人の取組状況

2. 学年毎の傾向の特徴

○全体的傾向

第1回授業評価と比較すると、全体的に上昇している。第1回授業評価の8割以下は1年生7教科14項目、2年生3教科7項目、3年生なしであったが、第2回授業評価では、1年生6教科9項目、2年生2教科2項目、3年生なしと改善がみられる。第1回授業評価で比較的多くの項目で課題があった1年生は全体的に上昇しており、特に低評価だった「D：生徒主体の授業の工夫」は1教科を除いて、すべて8割以上となった。2年生においても、「D：生徒主体の授業の工夫」は第1回の地理歴史が79%から87%に、数学が73%から81%にと上昇し、すべての教科で8割以上（7教科は9割以上）となった。「G：学習への取組」についても、1年生の保健79%が84%に上昇し、すべての学年で8割以上となった。「H：態度・姿勢」は第1回から高い傾向は続いており、1・2年生はすべての教科で9割以上、3年生は1教科を除いて9割以上となった。

前回の課題であった生徒主体の授業に関して大きく改善していると言える。生徒に良いアプローチができるよう、引き続き授業改善に努めていく必要がある

○国語

全体的に高い傾向にあるものの、1年生においては、「C：授業の進め方」「E：説明のわかりやすさ」「F：生徒への接し方」で第1回授業評価と比べると8割未満に下降している。2年生に関しては、1項目を除いて9割台、3年生においては2項目を除いて9割台である。

1年においては古典の比重が増え、助動詞等文法事項の難化が下降の原因として考えられる。文法事項の内容を精選しより丁寧な説明を心がけたい。

○地理歴史・公民

全体的に高い傾向にある。第1回授業評価で、「D：生徒主体の授業の工夫」が1年生地理歴史77%、2年生地理歴史が79%だったのが、82%、87%といずれも上昇した。ただ、「B：授業の充実感」が1年生地理歴史と2年生公民で、8割未満に下降した。

生徒が主体的に授業に取り組みながら、授業の充実感が得られるような授業を行えるように、授業内容・教材の精選や工夫に地歴・公民科として取り組んでいきたい。

○数学

第1回授業評価と比較し、ほとんどの項目で上昇している。1年生は課題であった「B：授業の充実感」が74%から84%に上昇し、すべての項目で8割以上（7項目は9割以上）となった。2年生においても第1回授業評価で7割台であった「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」「D：生徒主体の授業の工夫」「F：生徒への接し方」について、「B：授業の充実感」を除いて8割以上に上昇しており改善が見られる。3年生においては、すべての項目で9割以上と高い数値となった。

1学年においては、グループワークによる演習を増やしたことが、「B：授業の充実感」を含めた評価が上昇した要因であると思われる。2学年における評価の上昇は、特に数学Bのクラス分けの変更により、概ね生徒の習熟度に応じたクラスに分けられたことによると考えられる。

○理科

第1回授業評価と比較し、ほとんどの項目で上昇している。1年生は第1回授業評価で7割台であった「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」「D：生徒主体の授業の工夫」「F：生徒への接し方」のうち、「D：生徒主体の授業の工夫」「F：生徒への接し方」は8割台に上昇した。しかし「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」等は依然課題が残る。2年生においては「B：授業の充実感」が8割台に上昇し、他の項目もすべて9割以上の高い数値となった。3年生においても、「D：生徒主体の授業の工夫」以外すべての項目で9割以上と高い傾向にある。

1年生については、ていねいな解説を心がけ、よく理解させることで授業の充実感を上げていくよう取り組んだ。その結果、Eの項目はやや改善したが、Bの項目の改善にはつながらなかった。しかしながら、指摘を受けた1年生のB：72%、C：77%は、他の項目と比較して低いというだけで、これ自体は充分高い数字である。理科としては、B、GおよびHの項目の数字は生徒の学びの質を測る指標の一つになると考えており、これらの項目の数字を上げるために、教員はC、DおよびEの項目に引き続き注力したい。

一方、一定のレベルを保って、あるいは生徒の深い学びを追求しつつ、これらの数字を上げていくことは容易ではない。

○保健体育

全体的に高い傾向にある。「体育」は、2、3年生すべての項目において、9割台と高い評価を維持している。特に2年生の「A：授業の準備・教材の工夫」「C：授業の進め方」は100%であった。1年生に保健において、第1回授業評価では「D：生徒主体の授業の工夫」「F：生徒への接し方」「G：学習への取組」が8割未満であったが、「F：生徒への接し方」「G：学習への取組」は8割台に上昇した。「D：生徒主体の授業の工夫」について課題が残る。

「D：生徒主体の授業の工夫」について1年生の保健で課題が残る結果となったが、1単位で予定された内容をすべて終了させることを目指すと、グループワーク等に取り組むには時間的な難しさも感じている。また、今年度については非常勤講師の先生方にも授業をしていただいている中で、“授業力向上の取り組み”について教科全体で共通理解をもって授業をするためには、少し説明が足りていなかったことも一因であると考えられる。

○外国語

第1回授業評価と比較し、ほとんどの項目で上昇している。1年生は第1回授業評価で7割台であった「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」「F：生徒への接し方」のうち、「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」は8割台に上昇した。しかし「F：生徒への接し方」は依然課題が残る。2、3年生については、「B：授業の充実感」を除いて、すべての項目で9割台と高い傾向にある。

1年は比較的教科書の難易度が高く、理解を深め応用力をつけるための演習が不十分であったことが、結果的に「F：生徒への接し方」の低い数値につながったと思われる。第1回と比較して「B：充実感」74→82「C：進め方」73→81と同様「F：接し方」も72→77と改善傾向にはある。今後は授業の中で扱う内容を精選しつつ、生徒の達成感や充実感を実感させるしかけを工夫し、家庭学習への意欲につながるようにしていきたい。2、3年生については、全般的に90%台と高い数値を維持している。唯一「B：充実感」について2年が、83→89、3年が88→88と80%台であり、相対的傾向としては念頭に置くべき課題と考えられる。

○総合

全体的に高い傾向にある。1年生において、「F：生徒への接し方」が第1回授業評価8割台から7割後半へ下がってしまった。2年生、3年生はすべての項目で9割台と高い傾向にある。

全体的に高い傾向にあるものの、より良い探究学習を進めるためには、個々の生徒の状況を把握した上で、グループでの探究活動に積極的に参加できるような教員の働きかけが求められる。個々の取組を全体に還元していくような支援体制について研究を続けていきたい。

3. 教科毎の傾向（評価3，4の割合）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	92%	89%	89%	87%	91%	87%	91%	93%
地理歴史	93%	82%	90%	85%	95%	86%	88%	92%
公民	97%	79%	93%	97%	95%	87%	85%	93%
数学	92%	82%	87%	88%	93%	88%	91%	93%
理科	95%	81%	87%	88%	91%	90%	92%	93%
芸術	97%	95%	95%	81%	96%	96%	91%	97%
体育	95%	98%	95%	90%	95%	92%	96%	98%
保健	94%	91%	91%	83%	97%	89%	88%	94%
外国語	93%	87%	89%	93%	92%	87%	91%	93%
家庭	97%	92%	96%	90%	95%	95%	92%	95%
情報	97%	85%	85%	82%	93%	88%	89%	96%
総合	91%	93%	91%	96%	91%	88%	91%	95%

参考1（2017年 第1回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	91%	94%	86%	96%	92%	93%	94%
地理歴史	94%	83%	89%	80%	94%	87%	87%	92%
公民	96%	82%	90%	98%	96%	88%	84%	94%
数学	91%	74%	81%	82%	90%	83%	90%	93%
理科	94%	76%	85%	82%	91%	87%	91%	93%
芸術	98%	94%	94%	88%	96%	97%	92%	98%
体育	95%	97%	94%	90%	95%	95%	94%	98%
保健	94%	93%	91%	79%	95%	85%	86%	94%
外国語	91%	82%	85%	91%	89%	84%	90%	92%
家庭	93%	85%	89%	83%	95%	86%	85%	88%
情報	99%	86%	91%	76%	96%	93%	90%	95%
総合	92%	92%	91%	97%	93%	88%	90%	92%

参考2（2016年 第2回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	97%	91%	94%	90%	96%	93%	93%	95%
地理歴史	95%	86%	91%	84%	95%	90%	90%	95%
公民	100%	95%	97%	96%	100%	98%	93%	97%
数学	88%	76%	79.9%	84%	86%	83%	91%	92%
理科	97%	85%	92%	93%	97%	94%	91%	94%
芸術	98%	94%	93%	92%	96%	96%	90%	98%
体育	93%	96%	95%	93%	95%	94%	95%	99%
保健	98%	94%	95%	92%	98%	93%	91%	95%
外国語	96%	85%	92%	94%	94%	93%	93%	94%
家庭	97%	96%	93%	91%	95%	93%	92%	93%
情報	100%	87%	95%	88%	97%	91%	88%	99%
総合	93%	93%	92%	95%	94%	91%	92%	94%

4. 教科毎の傾向の分析（項目毎に分析）

○授業内容

「A：授業の準備・教材の工夫」

すべての教科で9割台と高い評価を得ている。授業改善を日ごろから念頭に置いて教材研究が行われている成果であると思われる。

「B：授業の充実感」

公民が7割台である。数学と理科が前回（第1回）比較で7割台から8割台への上昇となった。

「C：授業の進め方」

全教科で8割台以上と高い評価を得ている。数学が前年度（第2回）比較で7割台から8割台への上昇となった。

○指導方法

「D：生徒主体の授業の工夫」

どの教科も、8割台以上と高い評価を得ている。保健と情報が前年度（第2回）比較で7割台から8割台への上昇となった。

「E：説明のわかりやすさ」

全教科が9割台と高い傾向にある。授業改善を日ごろから念頭に置いて教材研究が行われている成果であると思われる。

「F：生徒への接し方」

全教科で8割台以上と高い評価を得ている。

○本人の取組状況

「G：学習への取組」

全体的に8割以上と高い傾向にある。

「H：態度・姿勢」

全教科において9割台である。生徒の自身への評価の高さが伺える。